



6日間で脱初心者

ISPA クルーザースクール 潜入航海日誌

横浜ベイサイドマリーナで、2008年の春から開講されているISPAクルーザースクール。半年先まで予約が埋まるこの人気スクールの受講生は、すでに400人を超え、カリキュラムを習得した生徒たちの操船技術の評判も上々だという。たったの6日間で初心者を脱することができる魔法のカリキュラムとはどんなものか。密着レポートをお伝えします。

文=中村剛司(本誌) 写真=宮崎克彦(本誌)
text by Tetsushi Nakamura(KAZI), photos by Katsuhiko Miyazaki(KAZI)

※本記事中で使用する用語は、ISPAで使用される用語ではなく、本誌の基準にしたがって表記しています

2人だけで離岸、着岸し、アンカリングもリーフもこなす短期集中のセーリングプログラム

ISPA (International Sail & Power Association) とは、セーリングにおける国際的な資格、プログラムの開発、運用を目的とした組織のこと。イギリスのRYA、アメリカのASA、カナダのCYAなどのプログラムを再検討し、1994年、カナダのバンクーバーで誕生した。セーリングの運用術を学べるのはもちろんのこと、国際的なプログラムであるISPAの修了証があれば、海外でのヨットチャーターも容易になるという利点もある。

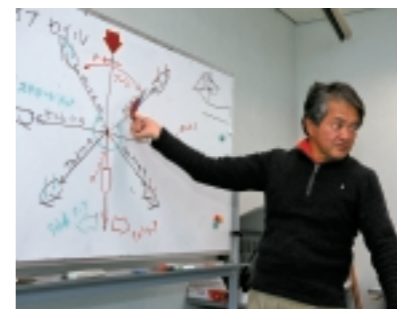
日本では現在、横浜ベイサイドマリーナでISPAプログラムの受講が可能だ。初めての受講生は、まず「コンピテントクルー」のコースを受講することになる。

ISPA方式の特徴は、徹底した安全意識の啓蒙と、複雑な操船技術の簡略化だ。通常さまざまな呼称があるセーリング角度も、「クローズホールド」、「ビームリーチ」、「ブロードリーチ」の三つに集約。また、ISPAで「ポイントオブセール」と呼ばれる各セーリング角度への転進は、まずは機走で行われ、景色の変化や船の動きを体感することを優先させ、より効率的にタッキングやジャイビングを学んでいく。

ポイントオブセールのほかには、離着岸、アンカリング、そして、リーフ(縮帆)

作業に重きを置き、これらの作業をすべて2人で完結させる運用術も、まさにISPA流といえる。

では、これらの技術を習得する6日間に、早速密着してみよう。



博識な鈴木浩治インストラクターの座学は、知らず知らず引き込まれるものがある。テキストにはない含蓄あるトークは、受講生にも好評だった

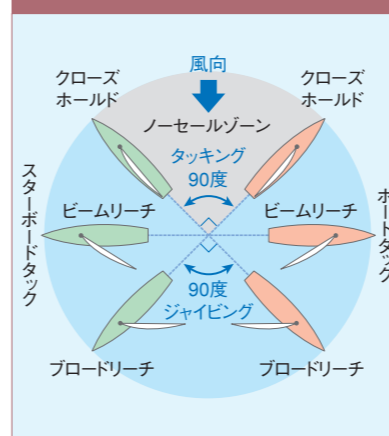


実物のクリートをを用いて行われる、室内でのロープワーク講義。実践的で状況に応じた指導が印象的だった



濃密な6日間のプログラムを、果敢にこなしていく4人の受講生たち。ISPAを修了し、外洋に羽ばたく日が待ち遠しい

ポイントオブセール略図



チーフインストラクターを務める岡田豪三氏(66歳)。大学ヨット部でディンギーに乗り、卒業後はクルーザーに転向し、太平洋シングルハンドレース、大西洋横断レースなどに参加。1998年、ISPA公認インストラクターとなり、多くのセーラーを指導している。



今回の6日間は、インストラクターの鈴木浩治氏(52歳)が担当した。中学生からOP級ディンギーに乗り、大学ヨット部からクルーザーに。ホビーキャット級全日本チャンピオン。海上自衛官として10年間、潜水艦勤務の経歴も持つ。

2人だけで安全に離着岸できる、ワンラインドッキングの秘密

ISPAの技術の中で、もっとも興味深いのが着岸方法だろう。コクピットのウインチから取った1本の係留ロープと、微速前進のキープにより、艇を桟橋に安定させて着岸させる「ワンラインドッキング」という技術がそれ。桟橋に艇が接したら、なによりも先にこのワンラインドッキング状態にすることで、安全迅速に2人だけの着岸が容易にできるのだ。ここではその手順を連続写真により解説しよう。離岸はこの逆で、まずワンラインドッキング状態にし、バウなどの係留ロープを解除。ギアをニュートラルにし、ラスト1本のワンラインを外して、ギアを入れ、離岸することになる。

左舷着岸を基本に、この離着岸の手順は、2人だけで何度も行われる。自力で海に出て帰ってくるための必須の基本技術だからだ。左舷離着岸をマスターした後、風向や桟橋のスペースなど、状況に合わせた応用へ移る。

また、離着岸での小回りには、プロペラの旋回性能を活用するのもISPA流。一般的な右回り一軸プロペラを持つ艇なら、ギアを後進に入ると船尾が左舷側にスライドする。通常、大型船の回頭などに使われる技術だが、ISPAでは小型のプレジャーボートでもこれを活用。例えば、左舷着岸時、約45度の進入角度で桟橋に近づき、桟橋に近づいた際、ギアを後進に入れ、船尾を左側(桟橋側)にスライドさせることで、スマートな着岸が可能となるのだ。



これがワンラインドッキングの状態。微速前進することで艇が桟橋に押し付けられる力が働き、たった1本のロープによって、安定して着岸されている



舵を桟橋側に押すことで、船尾が桟橋に近づく。スターンを舫う場合はこのように舵でアシスト



舵を沖側に押すことで、船首が桟橋に近づく。クルーの作業に合わせて艇の角度を変えよう

ワンラインドッキングから係留までの手順



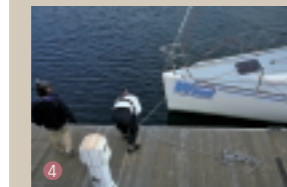
1 ヘルムスマンは、45度の角度で桟橋に微速接近し、桟橋の約1m手前で舵を切る。クルーは、右手にシュラウドを持ち体を安定させ、左手にワンラインドッキング用の係留ロープを持ち下船準備。必ずクルーの判断で桟橋に降りること



2 桟橋に降りたクルーは、係留ロープをクリートに1周させ、迅速にワンラインドッキング状態を作る。ヘルムスマンは微速前進のままギアをキープする。クルーは、艇が桟橋と平行になるようロープの長さを調整する



3 クルーは、クリートに係留ロープをクリート結びし、その延長を艇のスターンクリートに舫う。あまったロープは絡まぬよう整理して艇内へ。ヘルムスマンはクルーの作業に合わせて、舵で艇と桟橋の距離を調整する



4 船尾の筋を決めたら、クルーは落ち着いて船首側へ行き、バウクリートから取った係留ロープを桟橋のクリートに。この作業中も、ギアは微速前進のまま、ワンラインドッキング状態を継続させている



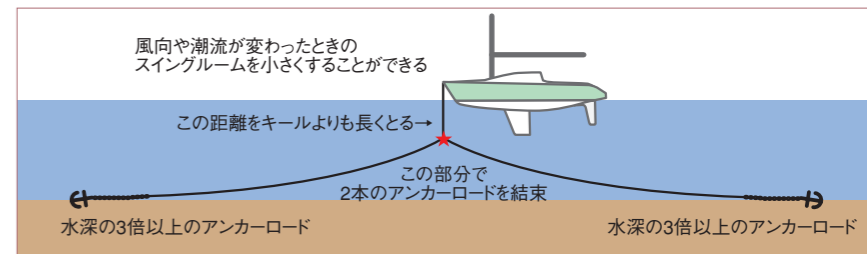
5 船首側のクリートにクリート結びした係留ロープの延長を、ライフラインに干渉しないよう注意しサイドステイやウインチなどに結ぶ。シュラウドにはラウンドターン&ツーフーフヒッチで結ぶ。ウインチに結ぶ場合は、ビット結びで



6 これで係留が完成。ISPA方式では、艇の長さ以上に幅を取らない係留法が採用されている。係留ロープは、船首から順に、バウプレストライン、バウスプリングライン、アフトスプリングライン、アフトプレストラインと呼ぶ

確実なアンカリング技術の習得

離着岸の次に習得するのがアンカリングだ。水深の3倍のアンカーロープをとることは当然だが、ISPAでは、船首風上方向に一つ、船尾風下方向に一つ、計二つのアンカーを使用し、2本のアンカーロープを1本にまとめてバウクリートに固定する方法も紹介していた。アンカーが一つの場合よりも、シングルルーム(風向や潮流により船が振れ回る範囲)が小さくなる非常に優れた方式だ。2本のアンカーロープは、キールに干渉しないよう長さの余裕をもって、ミドルマンズノット(二重引きとけ結び)でつなげる。



1 アンカーロード(チェーンとロープ)は絡まぬようフレグコイルにせず、互い違いにしておく



2 船首からアンカーを投入し、利いたことを確認したらそのまま風下方向に、水深の6倍分後進する



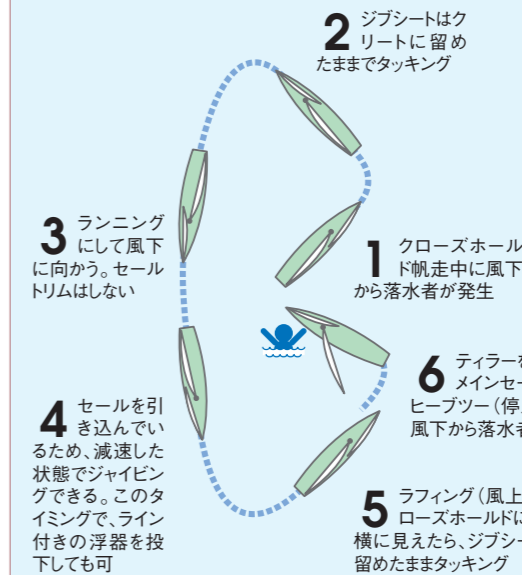
3 船尾側のアンカーを投入し、水深の3倍分前進し(二つのアンカーの中心)、2本のアンカーラインを結束

機走と帆走による落水者救助

落水者=MOB(マンオーバーボード)の救助も重要だ。講習は、機走と帆走、両方のシチュエーションで行われる。いずれも、落水地点に確実に安全に戻ってくる技術だ。帆走での落水者救助では、右図のように、セールをほぼ固定したまま安全に落水地点に戻る方法がレクチャーされた。シートワーク作業を少なくした、緊急時の操船技術だ。

しかしながら、セーリングにおいて落水は致命的な事故だ。講義は、落水そのものの予防に重点を置いた内容となっていた。

帆走での落水者救助方法の一例



旗の付いたパイで擬似落水者救助を行う。練習とはいえ、受講生たちにも緊張がはしる

1日目 座学 ISPAの説明、基本知識など

記者の目 北～東、風速3～5m/s。今日から6日間ともに学ぶ受講生とインストラクターの初顔合わせ。よい風が吹いていたが、初日は座学と係留中の艇内での用語説明。受講生たちは、早く沖に出たてたまらない様子だった。



2日目 離着岸、アンカリング、機走でのポイントオブセール

記者の目 北～北北東、風速5～9m/s。海上実習初日から濃厚な内容に。全員で離着岸とアンカリングの猛練習。午後には、最大風速9m/sの中での、迫力ある機走ハンドリング訓練。受講生たちは激しいスプレーの洗礼を受けた。



3日目 ベントオン(帆走準備)、帆走でのポイントオブセール

記者の目 北～北北東、風速6～12m/s。ついにセールアップしての帆走に。タッキング、ジャイビングもすべて2人だけで行われる。初のセーリングとしては、少々風が強かったが、波がなく、予想以上の習熟を得られた1日だった。



4日目 落水者救助(機走時、帆走時)、セーリング

記者の目 北西、風速9～16m/s。西混じりの強風下での落水者救助訓練。機走での訓練は順調だったが、帆走での訓練は、リーフしていたものの難航。午後には苦渋の判断で出艇を断念し、座学へ切り替えた。明日も強風の予報だ。



徹底したリーフ作業講習で、 荒天対策に自信を



リーフをマスターせずして、外洋セーラーにはなれない



フルセール。セールパワーは100%



ワンポイントリーフィング。略してワンボン



ツーポイントリーフィング。略してツーボン

リーフ作業の手順



1 まずメインシートをリリースし、メインハリヤードをゆるめる。あらかじめマーキングしておくこと(写真黄色のロープ)



2 セールを引き下げ、リーフクリングル(セールに付いたリング)を、ラムホーン(マスト側のフック)にかけ、ハリヤードを再びあげる



3 リーフロープを引き、垂れ下がったセールを、ブームに固定。リーフロープが外れた際にセールを破かぬよう、ゆるめに巻くこと



4 リーチのリーフクリングルには、リーフロープとは別のロープを使って補強。セールタイなどは使わずロープできつく結ぶ

ISPAの受講生の間で、もっとも評判がよい講習がこのリーフ(縮帆)作業だ。初心者にとって、荒天での対応策を身に付けることは、とても重要なことであるし、中級セーラーでも、リーフ作業にまだ不安を抱えている人も少なくない。ISPAでは、もちろんこのリーフ作業も2人だけで行う(ヘルムスマンは舵を保持するのみなので、実質1人での作業)。フルセールからのワンポイントリーフィング、そこからさらにツーポイントリーフィング、一度フルセールに戻してからツーポイントリーフィングなど、リーフ作業の講習にはまるまる1日、たっぷり時間をかけている。

リーフ作業に対する自信は、荒天に対応できる自信の第一歩となるだろう。

5日目 桟橋でのリーフ作業、 洋上でのリーフ作業



西～南西、風速9～15m/s。午後には昨日同様の強風になるも、鈴木講師の判断により出航。ストームジブを使用して行われた、荒れる洋上でのリーフ作業は、本番さながらのシチュエーション。受講生たちの度胸も養われた。



6日目 仕上げセーリングとして、 YBMから浦賀までクルージング



西～西南西、風速9～17m/s。もはや強風には動じない頑強な心臓を得ている受講生たち。顔つきも精悍(せいかん)に。20m/sを超えるブローの中でも、熱心に質問をし、技術を吸収しようとする姿に感動した。6日間お疲れさまでした。



航程23マイルの仕上げセーリング

最終日には、横浜ベイサイドマリーナから、浦賀のシティマリーナ ヴェラシスまでの、往復約23マイルの仕上げセーリングが待っている。これまで学んできたすべての技術を駆使して、受講生たちだけでショートクルージングを完遂しなければ

ならない。あらゆる技術を習得した、厳しかった講習もすでに6日目の最終日。23マイルを自分たちの力で渡りきること、そして6日間の講習で得た知識は、今後のセーリング人生において大きなプライドとなるだろう。



洋上でのリーフ作業、タッキング、ジャイビング。すべての技術を総ざらいする

念願のISPA修了証授与式

鈴木インストラクターは言う。「さまざまな技術を習得した6日間でしたが、皆さんはこれでやっと『セーリングの扉を開いた』だけに過ぎません。世の中には2種類の人間しかいません。それはすなわち、ヨットに乗る人間と、乗らない人間で

す(笑)。これで晴れてヨットに乗る側となった皆さんは、今後多くの経験を積み、立派なセーラーになっていくことを祈っています」。達成感と感動に包まれる瞬間だ。ひとりでも多くの人がこのスクールを通じて、セーリングの扉を開くことを望む。



ISPAログブックに、コンピテントクルーのコースを修了した証となる、インストラクターのサインと割り印が押される。感動の瞬間だ

ISPAスクールを終えた、受講生たちの声

西田 互さん(48歳)



2010年6月に31ftのクルーザーに乗せてもらい、風を肌で感じる感覚に感動。一生やる価値のある趣味だと思い受講。何かをはじめるときには、その道の一番のプロに学ぶことにしており、検討した結果当スクールを選択。

●「テキストが家に届いたときには、6日間ですべて覚えられるのか?と困惑したが、要点を絞った講義により、体系だった知識が得られました。「兆候を見て、現象を予測する」という鈴木先生の教えは社会でも役立つと思いました」

西田 耕士さん(44歳)



ジャカルタ駐在中にパラグライダーとウインドサーフィンに親しみ、帰国後ポート免許取得。口コミでISPAを知り、クルーザーに興味をわく。外洋クルージングに出ることを目標に、一からセーリングを学ぶことに。

●「ISPAの修了証があると、海外でのチャータークルージングができると聞き受講しました。ハードな海況でセーリング経験ができたことは貴重でした。次はカナダでのコストルナビゲーションのコースを受講したいと思います」

荒木 富夫さん(62歳)



霞ヶ浦でデインギを経験し、27歳でポート免許を取得。ヤマハ・バスボートを購入し、2～3年はボート遊びをしていた。52歳からセーリングを再開し、クルーザーによる八丈島や瀬戸内海、長崎などへのクルージング経験を持つ。

●「2009年にコンピテントクルーを受け、自分のレベルがどれくらい上がったのかを確かめるために、今回デイスキッパーを受講しました。これまでにないハードな内容だった。自分に足りない部分が明確になった6日間でした」

横山 和彦さん(56歳)



25年前、月1回程度のペースで3年間クルーを経験。当時はスキッパーに言われるまま船上を駆けずり回っていた記憶しかないとか。定年後もヨットにきちんと乗れるようにと受講。明るい性格で6日間のムードメーカーとなる。

●「荒天により、4日目の午後に出航中止。5日目にも風が落ちなかったなか、鈴木先生が出航を英断され、ものすごい風のなかで帆走できたことに感動しました。その経験で、最終日のさらなる強風も乗り切れた。日々感動でした」

横浜ベイサイドマリーナ ISPAクルーザーズスクール

- **体験セーリング(半日)**
参加費用:5,250円
(12歳以下は3,150円)(税込)
- **コンピテントクルー/
デイスキッパー(6日間)コース**
参加費用:157,500円(税込)
※受講者はコンピテントクルーの資格取得を目指します。修得状況によりデイスキッパーの資格も同時に取得可能です。
- **コストルナビゲーション/
コストルスキッパー
(理論講習4日間、実践7日間)コース**
参加費用:336,000円
※実践はカナダ・バンクーバーにて
- **ヨットマスターオブショア
(カナダ・バンクーバー島一周14日間)
コース**
※参加費用等の詳細はお問い合わせ

問い合わせ
横浜ベイサイドマリーナ(イーストハウス)
TEL: 045-775-4153
E-mail: okada@ybmarina.com
http://www.ybmarina.com/ispa